

【自然環境】

トカラ列島の有人島では南端に位置し、隆起した珊瑚礁でできた島。面積は 7.14 km²とおおよそ桜島の 10 分の 1 の大きさである。鹿児島港から 366 km でありフェリーで約 12 時間の距離である。奄美大島からは約 90 km であり、天気が良いと宝島から奄美大島を見ることができる。空港はなく週に 2 回訪れるフェリーが唯一の交通手段である。宝島を含むトカラ列島は北緯 30° 付近に位置し「亜熱帯性気候」である。年間の平均気温は 20 度、夏は熱帯のような暑さになり温暖である。したがって、本土では見られない、亜熱帯特有の植物である、ハイビスカス、ガジュマルの木、アダンの木、島バナナ、サトウキビなど見られる。動物や昆虫においても、県の天然記念物に指定されているトカラウマや、その他にもトカラカラスアゲハ、トカラヤギ、野生牛など貴重な生物が生息している。また、黒潮の通り道となっていることから周辺の海域は水温が高く、珊瑚礁をはじめ、そこに暮らす南の海特有のカラフルな魚や時にはウミガメが見られる。宝島を含めるトカラ列島の海は小笠原の海と並んで日本で唯一人の手が入っていない海であり、海の透明度も高い。宝島にはおよそ 6 つの鍾乳洞があり、その中でも観音洞と呼ばれる鍾乳洞は奥行きが約 60m あり、海賊の財宝の隠し場所となっていたという伝説がある。



大籠海水浴場



トカラウマ



観音洞



宝島地図

【社会的背景】

宝島の人口は、H27 年 11 月の時点で男性 70 名、女性 63 名の計 133 名である。人口構成は 0～14 歳 26 名 (19.5%)、15 歳～64 歳 69 名 (51.8%)、65 歳以上 38 名 (28.5%) である。産業としては、島バナナや、島らっきょうなどの農業や漁業、建設業、教育関連従事者、民宿などのサービス業などがある。最近では、島バナナから線維をつくり和紙や布をつくる新しい試みがなされている。

宝島の歴史としては、異国船打払い令の原因となった話がある。当時、上陸したイギリス人が

牛を略奪したことが原因で打払い令が施行されたという。その話の現場となった坂はイギリス坂と呼ばれており石碑がたてられている。また、第2次世界大戦後は奄美大島群島、沖縄とともにアメリカの支配下に置かれた。1952年に本土復帰を果たしている。



イギリス坂の石碑

【住民の生活】

宝島のイベントとしては、旧正月（旧暦1月）、豊作を祈願する田の神祭り、旧盆（旧暦7月）、十五夜（旧暦8月）、霜月祭り（旧暦11月）など季節にあわせて開催されている。また、トカラ列島島巡りマラソンという、有人島7島を定期船を利用して縦断するマラソン大会も行われている。

集落の中心部には公衆浴場があり、温泉が流れている。2日に1度営業されており、島民の癒しの場となっている。また、毎週金曜日には宝島小中学校の体育館でバレー大会が行われており、子供から大人まで集う憩いの場となっている。

宝島のコミュニティセンターには売店があり、大方の日用品や食材を調達することができる。アイスやお酒、釣りのえさまで販売されており、ちょっとしたスーパーマーケットである。その他にも郵便局や診療所まであり生活にあまり不便を感じさせない。

フェリーが週に2回のみでの来航であるため、島の外に出る機会は限られる。台風などで海がしけると船が出ないため、緊急時の移動はほぼ不可能である。食材の搬入もできないため、不足する事態も考えられる。



バレー参加



コミュニティセンター

【医療供給体制】

宝島含む十島村有人7島には、診療所が設置されており、看護師が1名常在している。住民の日々の健康管理は常在の看護師が行っているが、月1回鹿児島赤十字病院の指導の下、定期診療を行っており、また保健師による保健指導も行っている。鹿児島大学病院も、眼科、耳鼻科、歯科の巡回診療を実施しており、小児科についても県内在住医師のボランティアによる巡回診療が定期的に行われている。

さらに年1回、フェリーとしまが臨時のダイヤを組み、フェリーを臨時の診療所として結核検診を行っている。

診療所では対応できず、緊急を要する場合は、県消防・防災ヘリ「さつま」や自衛隊のヘリによって、奄美大島の県立大島病院や鹿児島へのき地中核病院に搬送されることになる。しかし、夜間照明装置がないため、夜間のヘリの運用には危険を伴い、また天候にも大きく左右されるためヘリポートがあるといえども、緊急医療体制は完全ではない。

歯科に関しては、鹿児島大学病院の巡回診療のみなので、その他の診療は奄美大島や鹿児島に移動する必要がある。島民の話を聞くと、奄美大島が近いので大島の歯科に受診している人がしばしばみられた。

高齢者福祉に関しても、宝島には老人ホームがあり、高齢者の生活の支援を行っている。

【実習概要】

日付	内容
12/7(月)	23時鹿児島港出発
8(火)	12時宝島到着 鹿児島赤十字病院の診療があったため、午後の診療は行えず
9(水)	診療準備、設営 診療、幼稚園小学校訪問、摂食嚥下指導見学
10(木)	午前、午後診療
11(金)	午前診療、午後機材片付け、島内バレーボール大会参加
12(土)	移動

【振り返り記録】

今回宝島の巡回診療に同行させていただき、非常に貴重な経験を得ることができた。大学病院の先生方や口腔保健センターの皆様に感謝します。ありがとうございました。

今回は、天候の影響があり、予定していた小宝島に行けず、宝島に4日間滞在した。当初、島内に歯科がないと聞いていたので、症状が重度の患者さんがいらっしゃるのではないかと考えていたが、実際は特に重度という患者さんは見られず、歯科に受診されたことのある患者さんがほとんどであった。巡回診療時に受診されている方の他にも、フェリーで奄美大島に渡って受診されたことのある方もおられた。医科に関しても同じであるが、巡回診療以外ではフェリーで移動する必要があり、しかもそのフェリーも週に2回と限られていることから、時間的、経済的な問題がある。歯科に関しては、本格的な治療をするとすると、数ヶ月に渡って通うこともあるが、宝島の環境ではなかなか難しいと今回の実習で改めて実感した。今回は成人の患者さんだけでなく、小児の患者さんの治療も見ることができた。萌出時期や、生え代わりの時期にちゃんと歯が生えてくるか心配される保護者の方が多く、相談される方が多くみられた。子供の歯で悩みを持つ保護者の方たちにとって、巡回診療は重要な役割を果たしていると感じる一方で、やはり歯科に常には受診できない状況は、お子さんがいらっしゃる方にとって不安なものだろうなと感じた。

今回の離島実習の経験は非常に新鮮で、また僻地医療についても考える機会ともなり、勉強になった。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。